

## 「コミュニケーション」と「トライアル&エラー」がキーワード！ ～2年目の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が始まりました～

今年度の学校運営協議会及び学校部会は、4月から5月にかけて市内の各小中学校を会場に行われ、学校経営の基本方針と学校の課題を踏まえた今後の取組の方向性について意見が交わされました。

このうち、5月30日、遠野東中学校で行われた遠野東中学校区学校運営協議会（佐々木謙会長）では、はじめに委員が中学校の授業を参観し、子どもたちの姿について共通認識を図りました。その後、学校経営の基本方針（以下、「方針」とします。）について協議を行い、委員全員の了承により、遠野東中学校区内の小・中学校の方針が承認されました。

協議では、方針の説明に入る前に、規則により議長を務めた会長から「今年度の目玉となるものや、前回の会議で意見を交わした学校評価の状況を踏まえ、前年度から修正した点を中心に説明してください」と発言がありました。中学校区内の小・中学校長は5分程度で方針の説明を行い、参加した委員からは「説明がコンパクトでわかりやすかった」との感想が寄せられました。方針の承認後に行われた学校部会の実施状況の報告と意見交換では、中学校の部活動や家庭学習の取組、読書、郷土芸能、ふるさと教育のほか、今年度市教育委員会が計画している小学生の放課後学習についてなど幅広い内容について意見が出されたことを踏まえ、「まずは、中学校区として、昨年度から話題になっている読書と、郷土芸能という2つの柱について意見を深め、小中と地域がまとまって取組むことができるよう話し合いを進めていく」という方向性が確認されていました。なお、遠野東中学校区学校運営協議会では、参加した全ての委員から発言をいただくよう進行において配慮がされており、会議でのコミュニケーションの必要性和切さを改めて感じました。今後、学校部会はあと2回、学校運営協議会は1回から2回開催される予定となっており、今年度は、話し合いをはじめとした様々な場でのコミュニケーションを基に、トライ&エラーを重ねながら、中学校区、そして各学校で取組の推進を図ることとしております。遠野の宝である子どもたちの「生きる力」を地域全体で育むため、より良い学校運営協議会及び学校部会となるよう、市教育委員会として今後も支援に努めていきます。



遠野東中学校区学校運営協議会の様子。話しやすい雰囲気のもと様々な視点から幅広い意見が出されていました。

### ■ 学校運営協議会・学校部会で出された意見から

大人の当たり前は、必ずしも子どもの当たり前ではない。家庭でも学校でも、言葉の意味とか細かいところを、丁寧に確認する必要がある。

先生方の働き方改革が叫ばれている中、コミュニティ・スクールが負担になっては本末転倒。先生たちには地域をどんどん頼ってもらって、地域は子どものためにできることを積み上げたい。

キャリア教育とコミュニティ・スクールは相性がいいと感じている。一つの柱として進めていければ良いのでは。



学校部会と学校運営協議会の進め方を昨年度ベースでただ継続するのではなく、現状に合わせて、見直し続ける必要があると感じた。

### お知らせ

今号から、「かわらばん」を各学校の協力により、PTAの皆さんにも配布することといたしました。「かわらばん」は、令和3年度から年3回程度発行し、幅広くコミュニティ・スクールの取組についてお知らせしております。これまで発行した「かわらばん」のほか、遠野市のコミュニティ・スクールの考え方などについては市ホームページに記載しております。右記QRコードからアクセスすることができますので、ぜひご覧ください。

